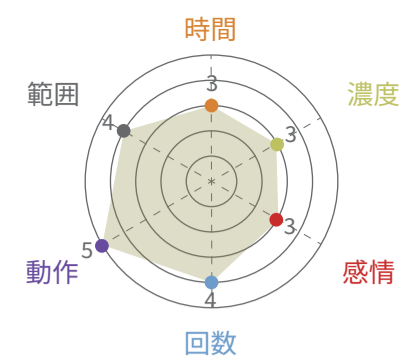


RITO-BUTAI

獅子舞

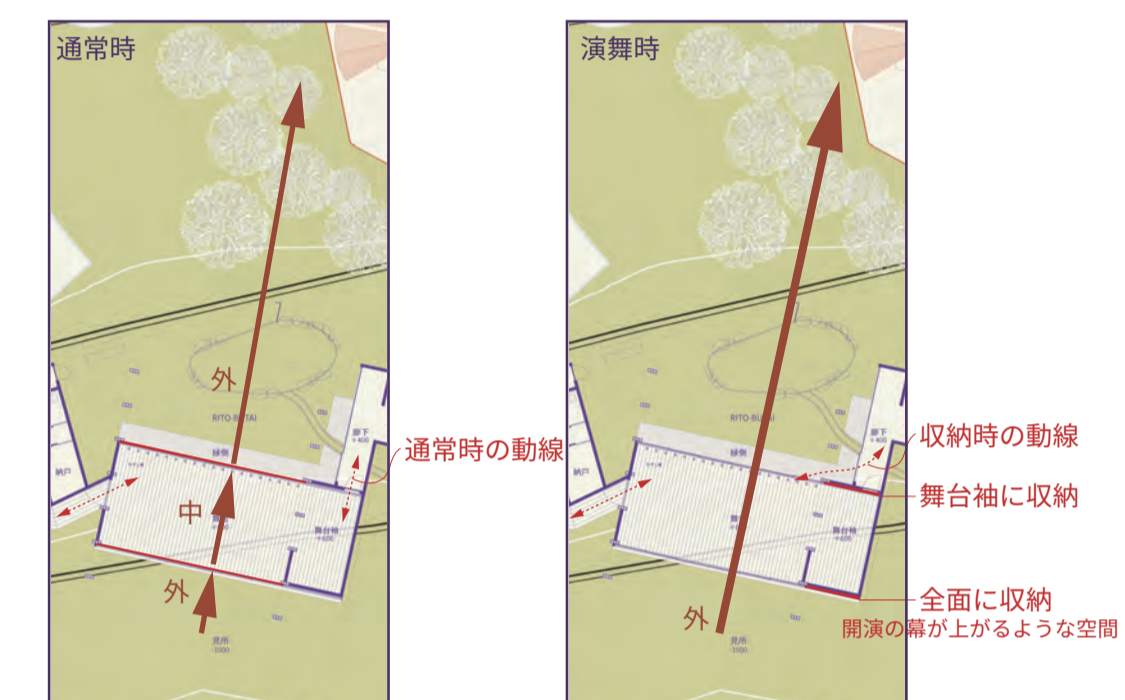
約 20 年前、会館掃除の際に獅子の面が見つかって以来青年団を中心として始まった獅子舞。お正月になると、獅子が各家庭へ無病息災を願い頭をかみにやってくる。現在は、萩原地域を飛び出し、区の祭りなどでも舞を披露している。面が見つかった当時、昔の人がやっていた証があるのだからぜひ復活させようという動きがあったらしい。この土地に対する愛情が獅子舞の復活へと繋がった瞬間だったのではないだろうか。



演舞時と通常時

獅子舞を今後も継承していくために、獅子舞の魅力をより一層感じることができる舞台を計画する。

通常時は大広間として使われ、お正月や、秋祭りなどの地域行事の際に使用される。舞う際には、框戸を全開にして、背景に竹、池、既存の梅の木などを映し出し、この地域のアイデンティティが詰まった空間での舞が披露される。

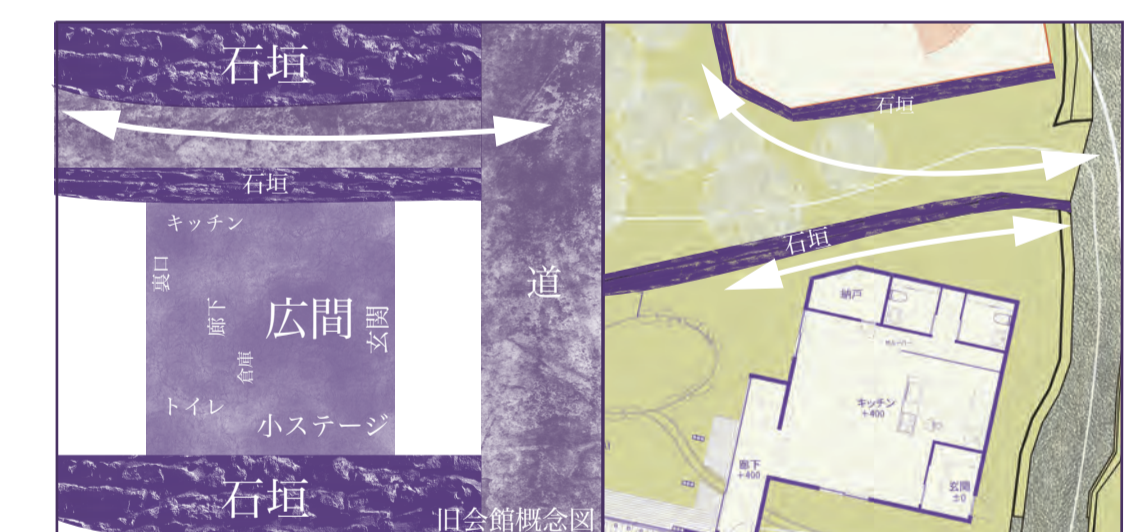


通常時は内外がはっきりと隔てられた空間 演舞時は内外が曖昧な屋根下空間

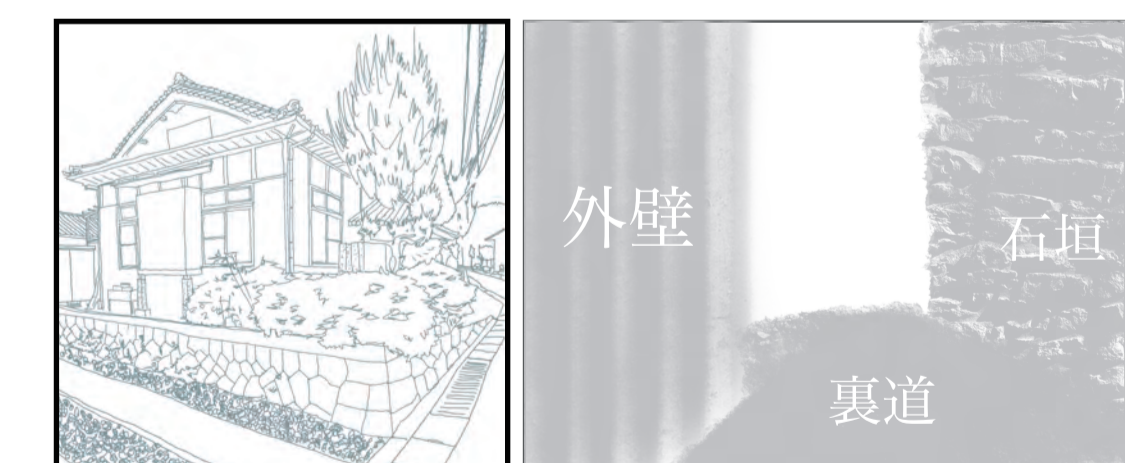
写し出す記憶

旧会館の裏道で走り回っていた記憶

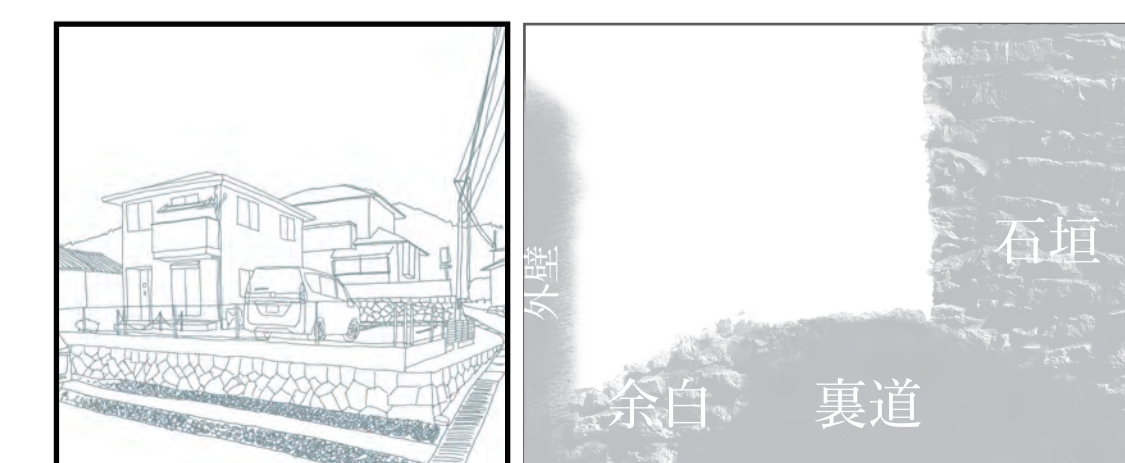
↓
地域の特徴の一つである石垣と建物に挟まれた裏道空間を写し出す



裏道空間

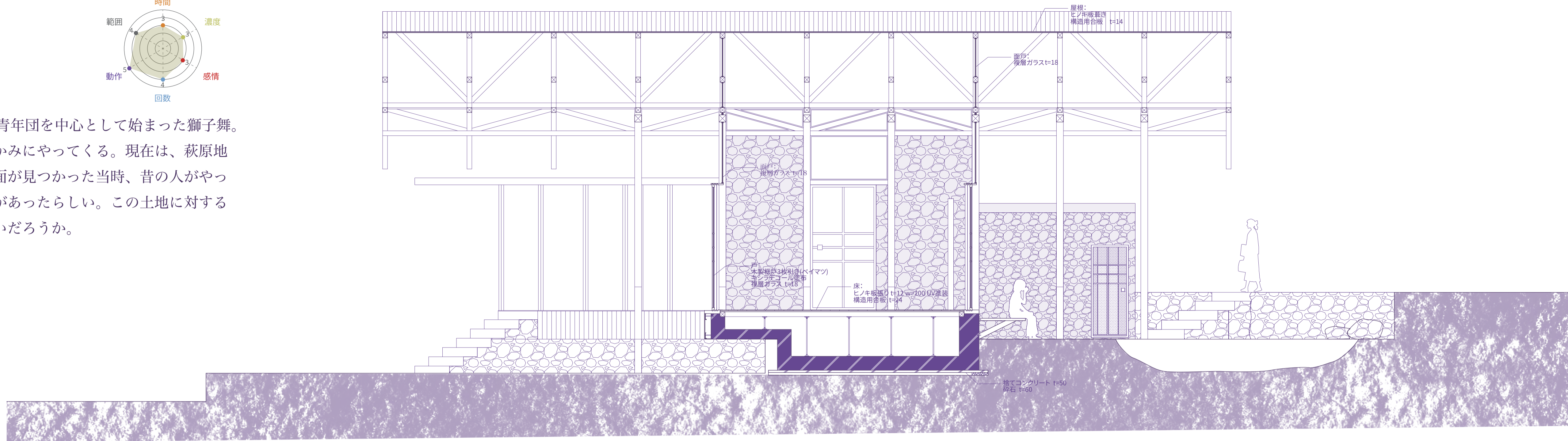


地域の特徴
道を通る時、外壁と石垣に包まれているような安心感が感じられた

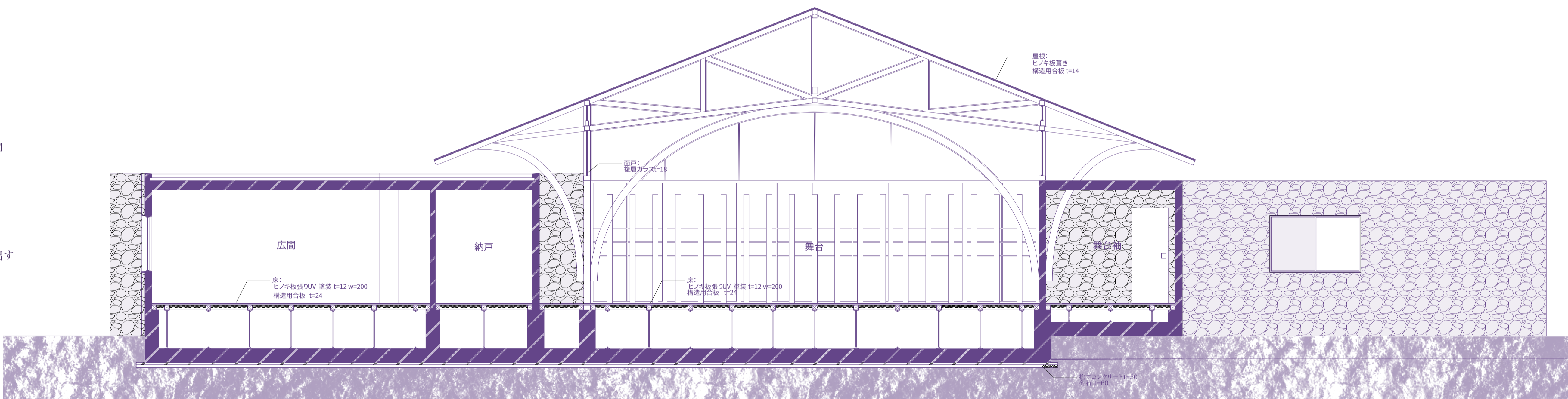


宅地化後

道を通る時、余白が見えることで少しの緊張感を感じる



RITO-ENTEI AA' 断面図 S=1:100



RITO-ENTEI BB' 断面図 S=1:100

